

令和元年度 鳥取県日野郡連携会議 次第

日時：令和元年12月20日（金）午後4時～5時

場所：日南町総合文化センター 多目的ホール

1 開 会

2 挨拶

3 活動報告

- 災害時の学校給食の相互支援について

活動報告

4 協議事項 ～ 急激な人口減少から生じる地域課題に対応するために

（1）地域の担い手の育成、確保のための連携

- 日野郡のふるさと教育の推進について

協議 1-1

- 関係人口及び移住定住等の拡充に向けた取組について

協議 1-2

（2）住み慣れた地域で暮らし続けるための取組の推進

- 持続可能な地域交通体系の構築について

協議 2-1

- 地域社会の基盤である集落の存続と活性化に向けた取組

協議 2-2

5 閉 会

令和元年度 鳥取県日野郡連携会議

出席者名簿

日時：令和元年12月20日（金）午後4時～5時

場所：日南町総合文化センター 多目的ホール

団体名	職名	氏名	備考
日南町	町長	中村 英明	会長
	副町長	丸山 悟	
日野町	町長	塔田 淳一	
	副町長	音田 守	
江府町	町長	白石 祐治	
	副町長	影山 久志	
鳥取県	知事	平井 伸治	
	日野振興センター所長	越智 浩明	

令和元年度 鳥取県日野郡連携会議

令和元年12月20日(金)

日南町総合文化センター

<活動報告> 災害時の学校給食の相互支援について

- ・平成29年度 鳥取県日野郡連携会議で「**災害に強い日野郡づくり相互支援協定**」を締結
⇒具体的に推進するため「**災害等発生時における日野郡3町の小中学校給食の相互支援に係る協定**」を締結
- ・平成30年度 **図上訓練及び配送訓練**を実施。

他町の児童生徒に学校給食を提供する「実食訓練」の実施（令和元年10月9日）

1 訓練概要

日野町給食センターが被災（想定）⇒ 江府町学校給食センターが日野町各小中学校の給食を調理 ⇒ 日野町の配送車が受領して各校に配送 ⇒ 児童生徒及び教職員が実食

- ◆ 生徒が実際に喫食する「実食訓練」では絶対に失敗は許されないため、図上訓練や配送訓練の結果を踏まえ何度もミーティングを重ねて準備を行った。



* 江府町給食センターでは、通常分（江府町の小中学校）178食 + 日野町の小中学校 190食
合計368食を調理

<活動報告> 災害時の学校給食の相互支援について

2 提供したメニュー



- ・江府町学校給食センターで豚汁を調理（救給カレー、常温みかんゼリー、牛乳は各町で準備）

3 訓練の成果

- ・学校給食衛生基準をクリアして、給食の提供が可能であることを確認できた。
（①調理完了から2時間以内の喫食 ②児童生徒が喫食する30分前までに検食）
- ・各町の給食センターの構造の違い（搬出口の高さが違う等）や、食缶への配分方法が異なることなど実務上の留意点が確認できた。
- ・児童生徒や保護者の防災意識の啓発につながった。

☆ 今後の訓練予定

日野町⇒日南町、日南町⇒日野町、日野町⇒江府町など組み合わせを変えながらスキルアップを図っていく

<協議事項1-1> 日野郡のふるさと教育の推進について

○日野郡の将来を担う世代の数は、大きく減少することが不可避な状況

[日野郡の小中学校生徒数（R1.5.1時点）]

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
日南小学校	21	21	17	25	17	24	125
黒坂小学校	1	7	5	4	3	7	27
根雨小学校	7	5	5	10	8	10	45
江府小学校	17	17	8	18	10	7	77
日野郡計	46	50	35	57	38	48	274

学校名	1年	2年	3年	計
日南中学校	27	26	26	79
日野中学校	17	17	21	55
江府中学校	17	17	23	57
日野郡計	61	60	70	191

○将来を選択する高校生の時期に地域との関係性が希薄になっている

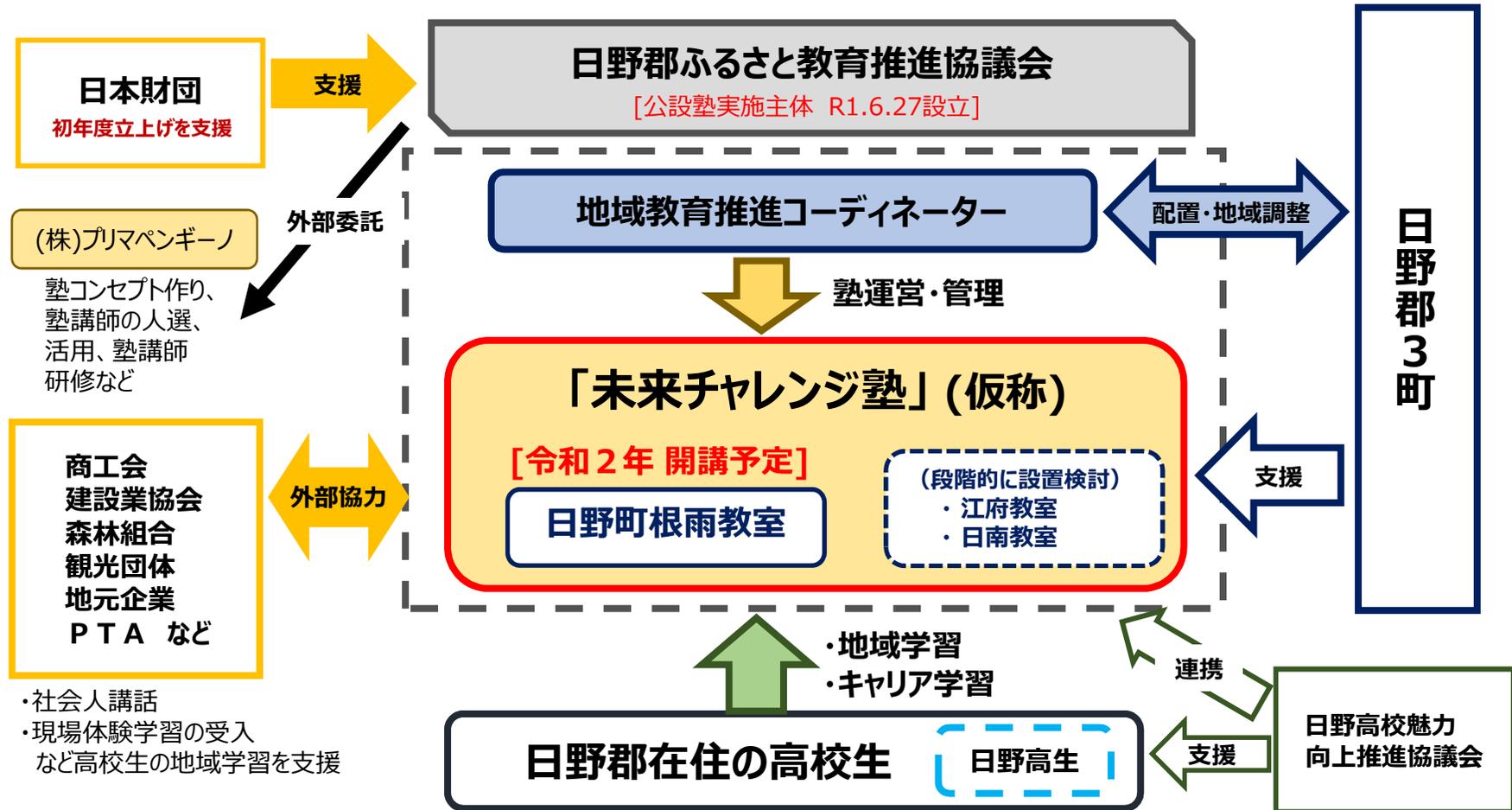
- 日野郡の中学生の約8割が郡外の高校へ進学し地域との関わりが薄れている。
- 郡外の高校では「日野郡」について学ぶ機会がほとんどない。（小中学校では熱心にふるさと教育を行っているのだが・・・）
- 就職や進学を機に町外へ転出した若者が地元に戻ってこない。



- 地域への関心の低下
- 郷土愛醸成の機会の喪失
- 若者の流出

<協議事項1-1> 日野郡のふるさと教育の推進について

日野郡公設塾「未来チャレンジ塾(仮称)」の概念図

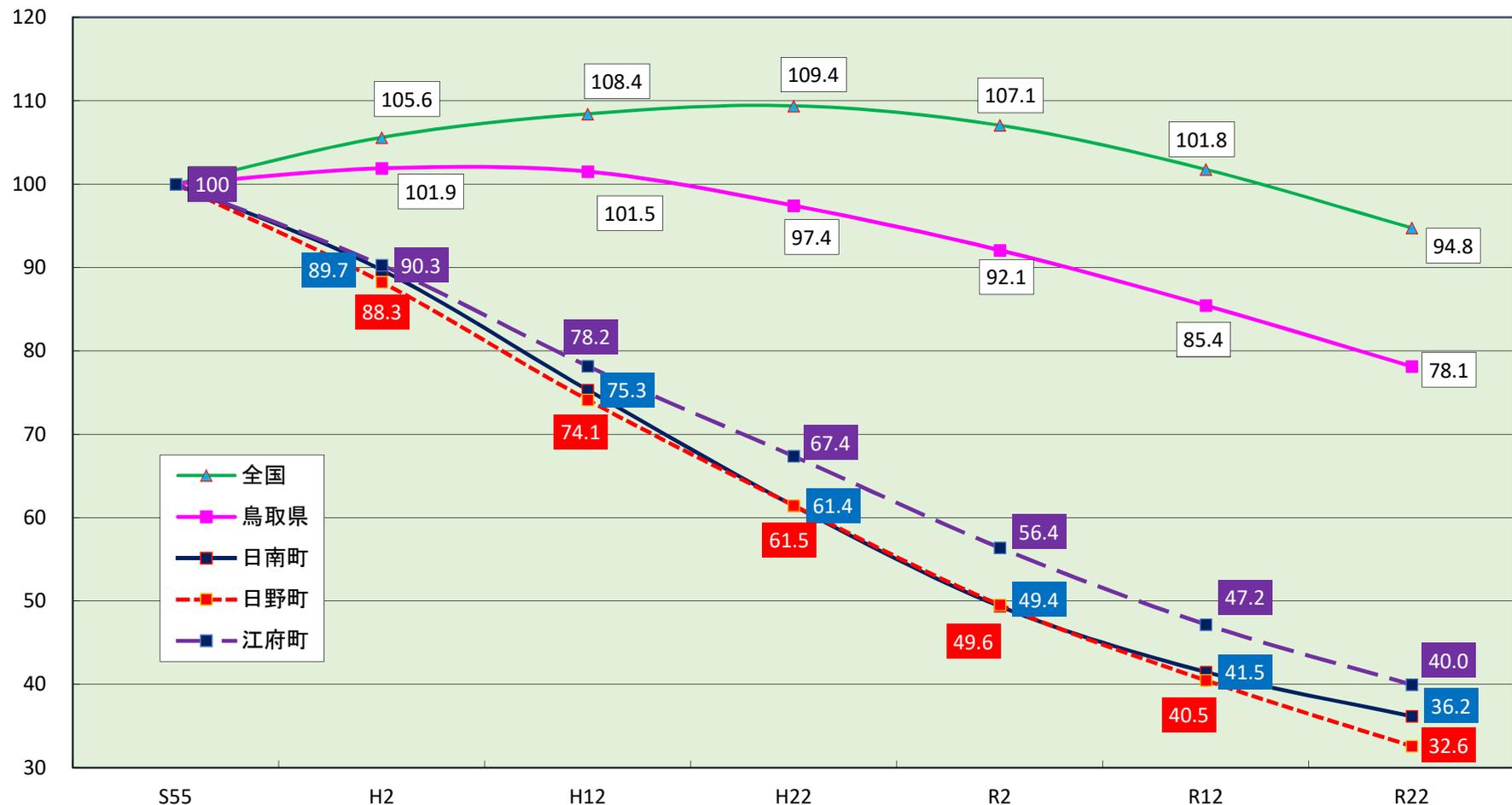


- 塾生は来春の新高校1年生を中心に募集(受講料は5千円程度を想定)
- カリキュラムは委託先の(株)プリマペンギノと協議して策定(開講は平日16時~21時を想定)
- 講師は3名体制とし、地域おこし協力隊制度を活用して各町が1名ずつ雇用

<協議事項1-2> 関係人口及び移住定住等の拡充に向けた取組について

人口減少の推移・将来推計（指数 1980年=100）

○日野郡3町は人口の絶対数が小さい中で、全国や鳥取県を大きく上回るスピードで人口が急減
⇒ 地域の賑わいを守り、地域の担い手を確保していく対策が急務



<協議事項1-2> 関係人口及び移住定住等の拡充に向けた取組について

各町とも、移住定住の促進に取り組むとともに、**地元住民や移住者に次ぐ地域の担い手**として、県人会やファンクラブ、郡内外の企業等の**関係人口を増やし、その関係性を強める**ための取り組みを行っている。



取組強化や連携の工夫はできないか！

	日南町	日野町	江府町
町人会等	◆ 関東町人会、関西町人会 ・隔年1回、現地で交流	◆ ひの郷会(ひのさと会) ・年2回、関西で交流	◆ 江府町関西交流会 ・自主活動
関係人口拡大	◆ ふるさと納税の返礼品強化	◆ ふるさと住民票(登録者418人) ・日野高OB、福よせ雛寄贈者、ふるさと納税者等を登録。交流会を実施。 ◆ 福よせ雛プロジェクト	◆ 江府町ファンクラブ ・ファンの集い(R2.1月に第1回) ◆ 見守りビデオレター R1~ ・江府町在住者から遠方在住の子や孫へ、町の暮らしと元気を届ける。
婚活支援	◆ 婚姻奨励事業(相談所費用補助) ◆ 結婚仲人奨励金(10万円/成婚)	◆ 婚活サポート事業 ・「古民家で恋活」イベント	—
同窓会支援	◆ 同窓会開催支援補助金 ・町内開催に補助 1人2千円	—	—
企業とのタイアップ	◆ 共生の森、共生の里、J-クレジット	◆ 共生の里	◆ 共生の里
学生等による交流活動	◆ 鳥取大学、明治大学等 ・大学の教育研究、町の地域活性化で多様な協働事業を実施 ◆ 学生人材バンク受入 ・草刈り等地域活動を支援	◆ 鳥取大学、早稲田大学(安達ゼミ)、東京富士大学等 ・スタディーツアー(魅力発掘) ・日野町魅力化プロジェクト ・地域医療に関する実習、研究、卒業後の研修受入 ◆ 学生人材バンク受入	◆ 鳥取大学(医学部)等 ・住民の健康調査等 ・地域医療に関する実習、研究、卒業後の研修受入 ◆ 江尾十七夜に高校生ボラ受入

<協議事項2-1> 持続可能な地域交通体系の構築について

○日野郡3町は町営バスを中心に、タクシー利用助成などで補完しながら地域交通を形成
⇒人口減少に伴う路線維持の将来性や運転手不足等の交通事業者の課題などが顕在化

	日南町	日野町	江府町
バス	(共立メンテナンスに運行委託) ・町営の路線バス(5路線41便) ・デマンドバス(同路線に各3便) ・循環バス(7便) ◆ほぼ全集落を網羅	(日本交通に運行委託) ・町営の路線バス(4路線6系統) ・デマンドバス(三土、小原地区) ・循環バス(7便) ◆空白地が2地区ある * 米子～日野病院線を日ノ丸自動車が運行	(日本交通に運行委託) ・町営の路線バス(6路線32便) ・フリー乗降(同路線に週1日3便) ◆路線を見直し全集落網羅
タクシー	(日南交通が3台運行) ○高齢者、免許返納者、身障者等に助成 <利用助成制度> ・タクシー券(400円券) 年50枚 ・利用者 約700人 (H30) * 対象者は約2,000人	(日野交通が3台運行) ○高齢者、介護認定者、身障者に助成 <利用助成制度> ・タクシー券 年48枚 ・①2,000円以下 1/2助成 ②2,000～4,780円 1,000円助成 ③4,780円以上 上限3,780円助成 ・利用回数 約4,700回 (H30) * 日野交通はバスとタクシーの運転士を共用	(日野交通が1台運行) ○高齢者、介護認定者、身障者、精神障がい者に助成 <利用助成制度> ・タクシー券 年48枚 ・1/2助成(3,000円上限) ・利用回数 約2,500回 (H30) * 江府町に運行事業者の事業所なし
共助交通	NPO多里が交通空白地有償運送 により集落内をドアtoドアで送迎	検討はこれから	検討はこれから
交通体系	中央大学と連携して地域交通プラン策定の作業を実施中 R1 モデル地区調査(福栄地区) → R2 同地区で実証運行	長期的な交通体系検討はこれから	今年度バス路線の見直しで空白地帯を解消したが、長期的な交通体系検討はこれから

<協議事項2-1> 持続可能な地域交通体系の構築について

地域交通は住民がその地で暮らしていく上で不可欠な生活インフラであり、将来にわたって持続可能な地域交通体系を直ちに検討することが必要

鳥取県日野郡連携会議にワーキンググループを新設し、3町で連携して調査検討

課題認識

Step 1

担当者会議：9月4日

- 各町の地域交通の現状確認、検討状況確認
- 共助交通について情報提供

知る・学ぶ
気づき
共通理解
機運醸成

Step 2

- 様々な共助交通の仕組みを学ぶ
- 共助交通の実践例を実際に見て知る
- 住民が求めている交通、その運営手法、持続性を学ぶ
- 組織内で情報を共有し、意思統一を図る
- 他の事例を自分の町に当てはめて考察する

10月23日：
3町、日野振興センターで視察
参加者：町担当者、センター担当者

11月5日：
鳥取県日野郡連携会議で視察
参加者：3町長、センター所長等

自分事として
考える

Step 3

【シミュレーション研究】

11月～

- 全てのバス路線沿線の10年後の
「集落の人口推計」
「乗客数の推計」
を地図に落とす

推計を参考に

- 路線持続可能性の検討
 - 代替交通の検討
- 等を行う

<協議事項2-2> 地域社会の基盤である集落の存続と活性化に向けた取組

○人口減少や高齢化により共同作業や生活環境の維持が困難になり、存続の危機を迎える集落の出現が現実の問題となりつつあります。

* 小規模高齢化集落（20戸未満かつ高齢化率50%以上） 全県194集落 うち日野郡118集落

地域で暮らしていくために必要なことはいろいろで、困りごともいろいろ

☆生活機能を維持しなければ
(買い物、病院、防災など)



☆福祉サービスが欲しい
(集いの場、配食、見守り、外出支援など)



☆生活交通を確保したい
(バス、タクシー、ドアtoドアの輸送、地域内輸送など)



☆農業振興・コミュニティビジネスをやりたい
(耕作放棄地対策、農地の保全、鳥獣害被害対策など)
(農家レストラン、6次産業化、集落営農など)



☆地域の担い手づくりをやりたい
(結婚、移住定住、観光、関係人口、など)



☆伝統文化や名所を守りたい
(お祭り、神楽、神社など)



地域・住民

住民自らが課題を見つけ、
解決していくことが必要

※ 様々な課題を行政がすべて
解決していくことは困難

【課題解決に向けて】

現状把握・課題整理

将来像共有・機運醸成

先進地情報・手法・ツール

行政

地域への
「現場支援」

